憲法９条の会つくば コミュニティニュース

結

2020. 9. 19　No.95　yui

発行「 憲法９条の会つくば 」
〒305-0005
つくば市 柴 崎 68-103
TEL/Fax 029-858-2034
http://peace.arrow.jp/tsukuba2/

「コロナ問題」に見る「アベ政権」の本質

◆「人の命より自分たちの利害」の立ち位置

まず、新自由主義を推進する安倍政権下での医療・保健体制の縮小が背景にあります。どんな時にも国民の生命・健康を守るという基本は、年々壊されてきました。

そして、感染防止の初動では、習近平の国賓来日、東京五輪の開催日程がそれぞれ延期と決まる（3/5、3/24）まで、政治的“打算”によって、国内の感染者の数値は抑えられました。対策のベースとなるPCR検査は、その後も大きく増えないままに推移しました。コロナへの政府対応は、“誰のため”に考えられてきたのでしょうか。

事態が悪化しても、「感染防止」と「経済活動」の両立という難しい課題の裏で、緊急事態宣言（4/7 七都府県、4/16 全国）とその解除の経過に見る政権の立ち位置は“自分たちの利害”にあるようです。経産省の持続化給付金事業の企業委託の問題、収束後と言っていたGoToトラベルの見切り発車の混乱…。

露骨なのは、コロナに乗じた「改憲」の策動（１月のうちから）です。コロナ禍のドサクサの中で検察庁法を変えようとした（５月）姑息さは、世論の大きな反発を受け断念に追い込まれました。一律給付を利用したマイナンバーカード取得への思惑も、うまくいきませんでした。

◆根拠も説明もない「独断」

後手とズレとブレに国民は翻弄され、困惑します。２月末に安倍首相が突然発表した「全国一斉休校」（3/2 から）は、専門家の知見によるものではありませんでした。現実を見ない“やってる感”のアピールでしょうか。国民の生き方を方向づけるのに「民主的な手続き」を尊重しないのが、この政権のやり方です。2015 年の“安保法制”を強行採決する際も、憲法学者がこぞって異議を表明し、国民の多数が反対するのを無視して“自分がやりたいこと”を押し通しました。

“アベノマスク”に続いて安倍首相のステイホーム動画（4/12）は大ヒンシュクを買いましたが、これも“お友だち”である側近とだけで決めたことのようです。マイナス評価を含めた多様な意見を聴いてベターな方策を考えるという姿勢はありません。空疎な“権力の集中”の必然の結果です。条件付30万円から一律10万円という変更(5/16 表明)のドタバタはこの政権の“決め方”のおかしさを象徴しています。

「自粛」を求めながら「休業」に「補償」はしないというやり方は、政治の責任放棄です。フリーランスや中小の業者、芸術・文化への打撃は、まさに人災と言えるでしょう。“国の財政負担を少なくしたい”という為政者は、“コロナ禍被害受忍論”に立っているようです。民間人の戦争被害を補償しない「戦争被害受忍論」に通底します。国民の痛みに寄り添って、前年からの消費増税が苦境に輪をかけていることに鑑み、緊急に減税する考えはないのでしょうか。

◆許さないこと、忘れないこと

コロナ禍は、政治が私たちの生活に直結していることを気づかせました。そして、今の政治が「国民」のためでなく「政権」のために行われていることを、私たちは改めて知りました。内閣支持率は大きく下がり、政府のコロナ対応への世論の評価はさらに低率です。その思いを、総選挙での審判に結びつけていくことが肝要です。

首相の病気による「退陣」は、過去の「リセット」ではありません。議事録を作成せず、情報を公開せず、国会を開かず(補正予算の予備費10兆円は、国会の議決なしに使えます)、会見から逃げる――そんな“アベ政治”を次の政権でも「許さない」だけでなく、その本質を“負の遺産”として「記憶に残す」ことです。

（後藤）

戦後75年、これからの日本はどうすべきか

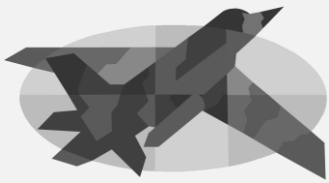
戦後 75 年に想う　米国の占領政策そのままのように、戦後 75 年アメリカの兵站基地であり続ける日本。日本国民が米軍から屈辱的な生命・財産の侵害を受けても何も米政府に言うことができない日本政府。このままでよいのかという想いが起こるのは７５歳である故かもしれません？

安倍首相が辞任表明し、その後 1 週間メディアが流す自民党の次期総裁選出劇は、日米両政府があらかじめ仕組んだシナリオをもっともらしく見せかけた出来レースのように私には見えます。

アメリカとの軍事同盟深化に大きく舵を切った安倍首相が辞任表明すると、間を置かずにポンペイオ米国務長官は安倍氏への称賛を何度か表明しました。結局のところ、総裁選のゴールはアベ政治の番頭であった菅氏に収斂し、アベ政治の継続を表明することでトランプ大統領を安心させるメッセージを出しました。底知れない対米従属の政治を、憲法を生かした国民本位の政治に変えること、それが戦後 75 年の絶えざる目標であると思います。（野崎）

立憲主義を取り戻し、自由と民主主義が根づくまで！　私の人生 75 年は、戦後とともにあります。憲法を学び、日本は永久に戦争しないという憲法９条があることに大きな安堵感を覚えたことを鮮明に記憶しています。2015 年９月、安倍政権は、集団的自衛権行使に関する「安保法制＝戦争法」を強行成立させました。同時に国会周辺では、「民主主義って何だ」「安保法制反対」と若者たちも声を上げはじめ、反対のうねりが全国に広がりました。

安倍首相は辞任会見で、改憲できず「断腸の思い」、新たな体制での改憲に期待を表明。戦後 75 年たっても「戦争できる国」が悲願なのです。過去の侵略と戦争への反省、謝罪をきちんとし、世界から信頼される国にしましょう。そのためには、これを実現してくれる政権に変えることが必要です。立憲主義を取り戻し、自由と民主主義が根づくまで、私達の運動も気を緩めることができませんね。（武田照子）



戦後 75 年の 8 月、ＮＨＫでは戦争と戦後に関わる幾つかの意欲的な番組を放映しました。私はその中でも「戦後補償」についての番組が心に残りました。同じ敗戦国のドイツ、イタリアは空襲などで被害を受けた非戦闘員の国民に国家として補償をしました。日本は被害を与えた周辺国への謝罪や補償もなおざり、国民や徴用工として働かせた朝鮮籍の人たちに何の補償もしていません。国民不在の戦後処理の有様は、現在進行中のコロナ対策の無責任さに直結するように思いました。８月末の安倍退陣、任期中に憲法改正ができなかったことに「断腸の思い」と述べた首相ですが、９条を評価するという７割の国民世論（５月ＮＨＫ調査）が「改正」を許さなかったのです。安倍政権は負の遺産を沢山残しましたが、戦後初の野党共闘という財産も生まれました。安倍亜流政権を許さず、立憲主義を貫く政府を早期に実現するため、賛同人の皆さんと力を合わせがんばりたいです。（穂積妙子）

安倍政治の検証がメディアで行われています。この政権は、国民の思いや要望をことごとく無視してきました。安保法制の強行。「モリ、カケ、サクラ」にみる国政の私物化。自分に関わる公文書が改ざんされ、その自責の余り部下が亡くなっているのに平然とする首相。民主主義の意識や倫理感を無価値であるかのように扱ってきた政治。まともな政治に変えてほしいと切に願います。（三浦）

折しも安倍政権が崩壊した（病気を理由にしていますが本当の理由は明らかに数々の問題から逃げ切れなくなったことですね！）今、これからどうしていくかを考える大事な時ですね。戦後もそうですが、相次ぐ自然災害や今回のコロナ禍からも負けずに立ち直るであろう日本人はどの国にも負けない人間力を持っていて、そのことを誇りに持つべきだと思います。その一方、今の自分の生活を幸福と感じられないという意識を持っている人が多いことは残念なことです。ゆったりといい音楽を聴くなど芸術文化をもっと育んで、そういう意味でも世界のお手本となれたらと願っています。そのことによって９条のある国だからこそ幸せな国なのだとアピールできたらいいですね。（堀部　一寿）

当会では毎月第３日曜日に定例署名、９日に９の日署名を行なっています。その他、「戦争をする国づくりＮＯ@つくば」と共に、毎月３日「アベ政治を許さない」スタンディングと署名を行ないます。

「憲法９条の会つくば」の活動から

◆賛同人　2020 年９月 10 日現在
総数 1013 名　（市内 726 名）
◆改憲発議反対署名９月 10 日現在 **612 筆**

「アベ政治を許さない」スタンディング

▼８月９月は猛暑の中のスタンディングでした。駅周辺の歩行者は少なく、スタンディング参加者も 5～6 人でしたが、暑さに負けず元気に取り組みました。高校生が署名してくれたり、行動後記念写真を撮っていたら通行人の女性が「撮りましょうか？」と声をかけてくれたり嬉しい出会いがありました。９月３日は、安部辞任の直後でしたが、国会前行動がとりくまれ、つくばでは「続・アベ政治を許さない」とアピールしました。自公政権は何の反省もなく安部政治を継承することにのみ意欲を見せています。憲法を守る立憲政治を実現するため、今後もアピールを続ける予定です。（H）

9条の会も平和の波行動に合流

▼８月６日、９日は、新婦人や平和委員会提唱の“「平和の波」行動 in いばらき”に参加しました。９条の会の賛同人でもある新婦人つくば支部長横井さんからの報告を転載します。

８月６日は二つのお寺で平和の波行動『鐘つき』をしました。栗原の北斗寺には参加者 15 名（内小学生の男子 1 名)、北条の宝安寺には、参加者 10 名。北斗寺では住職さんが８時 15 分に最初に鐘を突き、原爆で亡くなられた方々に黙祷をしました。その後、参加者の皆さんがそれぞれ核兵器廃絶と平和を願って鐘をつきました。参加した小学生はおばあちゃんから原爆のお話を聞きながら参加して「良かった」と感想。宝安寺では、北条ふれあい館の方 3 人も参加。「いいね。毎年やろうね。」との感想がありました。８月９日はつくば市役所コミュニティ棟会議室にて、オンラインで「原水爆禁止世界大会 in 長崎」を視聴しました。参加者は 10 名でした。（横井）

定例署名報告

▼７月以降、憲法９条の会つくばの署名活動は、毎月９日と第３日曜日となっています。

７月９日は雨のため中止、19 日(日)にはアルス前で署名活動をしました。19 日は安倍政権が「安保法制」を強行採決した日でもあり、毎月 19 日に抗議行動を続けている「3000 万署名つくば連絡会」と連携しての署名となりました。署名参加者は３人と少な目。

８月は３日の「アベ政治を許さない」スタンディングの際に署名活動をしました。駅前でのスタンディングで、通行人は急いでいるせいか、いつも余り署名は集まらないのですが、今回は 3 筆頂きました。新型コロナ禍で安倍政権批判が強まっていることが背景にあるのかもしれません。8 月は 9 日にも署名活動をしました。この日は長崎に原爆が投下されて 75 年目。原爆が投下された 11 時 05 分に北斗寺で「平和の鐘」を撞き、慰霊と平和の祈りを捧げました。８月第３日曜日の 16 日はお盆のため中止。（長田）

ヒロシマ・ナガサキから75年
ー原爆開発を描いたこの夏のテレビ番組ー

1945年7月16日、アメリカニューメキシコ州の砂漠の爆発実験で原爆は産まれました(マンハッタン計画)。その爆心地は、原爆のおかげで日本との戦争は早く終わったと信じる多くのアメリカ人が訪れています。

この８月、戦争中行われた日米の原爆開発についての３本のTV番組が放映されました。①は「太陽の子」(８月14日）で、さきの戦争中に京都帝大で行われた原爆製造研究と若い物理学者の苦悩を描いたドラマ、②は京都帝大・物理学教室で、この研究を行った荒勝文策や湯川秀樹などの科学者の活動を追った「原子の力を解放せよ－米国が疑った日本の原爆開発、戦後 75 年目の真相」(８月16日）、③は「光と闇の科学者列伝、裏切りと欲望の核融合－水爆の父テラーの素顔」(８月12日）です。

①と②は、日本海軍の命令で行われた研究ですが、原料のウランの精製にも失敗し、日本のはるかに低い技術レベルが露呈されました。荒勝や湯川の、行けるところまで行ってみたいという科学者の純粋さ、見方によっては「単純さ」が窺い知れた番組でした。

③は、アメリカのマンハッタン計画を率いて原爆を完成させたロバート・オッペンハイマーと、彼の下で水爆の原理を発見し、戦後それを完成させた「水爆の父」エドワード・テラーの対立を描いたドキュメンタリーです。

1939 年ドイツの科学者が、ウランの原子核に中性子をぶつけると原子核分裂が起こることを発見しました。世界はすぐに原子爆弾の可能性に気がつきました。ヒトラーが台頭した時期でした。

ユダヤ人迫害を逃れてアメリカにいたアインシュタインは、ルーズベルト大統領宛てに原爆開発を急ぐべきだと書簡を送ります。これにより 1943 年アメリカ政府は、物理学者を集め、ニューメキシコ州ロスアラモスに研究所を作り原爆開発(マンハッタン計画)をスタートさせます。

オッペンハイマーが所長となり２年後には原爆を完成させます。彼の家は、ドイツ系移民のユダヤ人。

アインシュタインは後に、ナチスドイツで原爆開発は行われなかったことを知り、ルーズベルト宛ての書簡を後悔したとのことです。

オッペンハイマーは、科学者としての野心から原爆開発に関わりますが、戦後に核兵器開発競争が進み世界が破滅に瀕することを防ぐため、アイゼンハワー大統領に対して原爆を、戦争に(日本)に使わないよう進言しました。

戦後水爆開発を指揮したテラーは、過去にオッペンハイマーからその研究を否定されました。

赤狩りが吹き荒れた 1954 年、オッペンハイマーが過去の左翼活動を理由に槍玉にあげられ、聴聞会(裁判)にかけられた時、テラーは「被告」は、国家の安全にふさわしくないと証言しました。皮肉にもこの年は、ビキニ環礁での水爆実験で第５福竜丸などが犠牲になった年でした。

テラーは、兵器開発も科学者の務め、どう使うかは政府が決めればよい、という人。オッペンハイマーは、核の国際管理の必要性を政府に主張した人。どちらが科学者として（人として)好ましいか明らかだと思いました。（三浦）

インフォメーション

◆**「市民の目でみたつくばの今～つくば市民白書 2020」**が 2020 年６月に発行されました。五十嵐市政の４年間を市民の目で検証するために、43 人・２グループの多彩な著者が執筆しています。販価 600 円(送料・振込手数料は別)です。購入を希望される方は、事務局（横井、029-851-6417、iformation@tsukuba-hakushosa.kura.ne.jp）または実行委員（野崎、029－851-7084、hrnozaki@yahoo.co.jp）までご連絡ください。

◆**「沖縄も私ーつながっていること、つなげること」**
9/22(火）～9/27(日) つくば美術館　＊入場無料

行動予定

※コロナ問題の社会状況の変化により変更する場合があります。

９月 19 日（土）13：30～15：30 世話人会　並木交流センター
９月 20 日（日）12：00～13：00 定例署名　アルス前
10 月３日（土）13：00～13：30　アベ政治を許さないスタンディング　つくば駅 A3 出口付近
10 月９日（金）12：00～13：00　９の日署名　アルス前
10 月 17 日（土）10：00～12：30 事務局会　市民活動センター（予定）
10 月 18 日（日）12：00～13：00 定例署名　アルス前